

- 放射光、中性子、 $\mu$ などの研究手段を総合した物質構造の研究を推進する観点から3 GeV陽子加速器を用いた物質研究との緊密な連携を維持すること。

また、これらに加えて、国内外の学識経験者による Science Policy Committee (SPC) を KEK に設置し、各分野の将来計画の優先順位を判断すること、どのような分野を KEK の新たな研究分野として加えるか、どのような開発計画を推進することが加速器科学の進展にもっとも有効であるか等の問題を審議することを提言する。



## 平成 15 年度後期 フォトン・ファクトリー研究会の募集

物質構造科学研究所副所長 松下 正

物質構造科学研究所放射光研究施設（フォトン・ファクトリー）では放射光科学の研究推進のため、研究会の提案を全国の研究者から公募しています。この研究会は放射光科学及びその関連分野の研究の中から、重要な特定のテーマについて1～2日間、高エネルギー加速器研究機構のキャンパスで集中的に討議するものであります。年間6件程度の研究会の開催を予定しております。

つきましては研究会を下記のとおり募集致しますのでご応募下さいますようお願いいたします。

### 記

- 開催期間 平成 15 年 10 月～平成 16 年 3 月
- 応募締切日 平成 15 年 6 月 20 日（金）  
〔年 2 回（前期と後期）募集しています〕
- 応募書類記載事項（A 4 判、様式任意）
  - 研究会題名（英訳を添える）
  - 提案内容（400 字程度の説明）
  - 提案代表者氏名、所属及び職名（所内、所外を問わない）
  - 世話人氏名（所内の者に限る）
  - 開催を希望する時期
  - 参加予定者数及び参加が予定されている主な研究者の氏名、所属及び職名

#### 4. 応募書類送付先

〒 305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1  
高エネルギー加速器研究機構  
物質構造科学研究所事務室  
TEL：029-864-5635

\* 封筒の表に「フォトン・ファクトリー研究会応募」と朱書のこと。

なお、旅費、宿泊費等については実施前に詳細な打ち合わせのうえ、支給が可能な範囲で準備します（1 件当たり上限 50 万円程度）。

また、研究会の報告書を KEK Proceedings として出版していただきます。

## Photon Factory Activity Report2002 ユーザーレポート執筆のお願い

PFACR2002 編集委員長 伊藤健二 (KEK・PF)

物質構造科学研究所・放射光研究施設 (Photon Factory) では、施設の活動報告集として毎年 Photon Factory Activity Report (PFACR) を発行しております。PFACR は、放射光研究施設の概要、年間の運転状況、新設ビームラインの紹介、光源加速器の R & D で得られた成果等についての報告書であるとともに、PF でユーザーの皆様が当該年度に実施された実験課題で得られた新しい結果の報告の場でもあり、広く国内外に配布して PF の活動を伝えて参りました。2002 年度 (2002 年 4 月～2003 年 3 月) の成果をまとめる PFACR2002 は、本年初秋の発行を予定して編集作業を開始いたしました。つきましては、皆様が過去 1 年程度の間 PF で実施された研究をユーザーレポートとして収集したいと考えておりますので、皆様の研究成果をレポートとして是非お送り下さるようお願いいたします。皆様の寄稿が PF のアクティビティーを計る一つの物差しでもあり、PF を支援していただき、ひいては皆様の研究環境改良にもつながるものであると考えております。

2002 年度に PF で実験を行った全てのユーザーの方にレポートを寄稿していただくのが基本ですが、データの解析あるいは解釈の関係で必ずしも 2002 年度に限定せず、それ以前の実験結果の報告でも構いません。

PFACR は Part-A の Highlights and Experimental Facilities と Part-B のユーザーの皆様からの研究成果報告 (ユーザーレポート) に分れており、昨年度から Part-B は CD-ROM のみでの出版となっています。昨年、一昨年の PFACR は PF の Web ページ、<http://pfwww.kek.jp/indexj.html> からご覧になれます。

ユーザーレポートの原稿や電子ファイルの準備・投稿要領は下記ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

PFACR2002 ホームページ:

<http://pfwww.kek.jp/acr2002/editj.html>

原稿締切: 5 月 31 日 (土) 厳守でお願いします。

多くのユーザーの皆様からのレポートをお待ちしています。

また、Part-A には出版物リストをつけています。これは PF で行われた研究を元に執筆された論文リストであるとともに、PF の活動のバロメータでもあります。未登録論文は、

[http://pfwww.kek.jp/users\\_info/users\\_guide/pubdb.html](http://pfwww.kek.jp/users_info/users_guide/pubdb.html) から登録をして下さい。以前に出版されたものでも結構ですので、ぜひ登録をお願いします。

なお、PFACR2002 についてのお問い合わせは、PF 秘書室 (TEL: 029-864-5196、E-mail: pf-sec@pfqst.kek.jp) までお願いします。

## PF-AR の定時入射

物質科学第二研究系 河田 洋

PF-AR は、リング高度化の結果、寿命の増大が予定通りに進み (~ 10hr@55mA、~ 20hr@30mA)、この 4 月の運転から基本的に 1 日 3 回の定時入射を導入いたしました。PF の入射時刻と重ならないように配慮する事から、通常の運転日は 10:00、17:00、01:00 に入射する事とします。入射器のスタディー日 [火曜日]、及び保守の日 [木曜日]、そして医学臨床応用が行われる日は別表に示しますように変則モードとなりますのでご注意ください。

また、PF-AR リングはまだ PF リングほど安定ではなく、ビーム寿命の急落等の不具合に伴う再入射の可能性を考慮しておく必要があります。その際の指針は「PF-AR がビームダンプないしはライフ急落した場合、できるだけ速やかに入射する。その時刻が次回定時入射の 2 時間前以降であれば、次回入射はスキップする」となっています (入射予定時刻はステーションに設置されたモニター上で分かります)。

4 月からこの運転モードで行い、さらに寿命の向上が見られましたら、1 日 2 回入射に移行していく予定です。

PF				
通常 (マルチバンチ)	09:00			
単バンチ運転	09:00	17:00	01:00	
木曜保守	09:00			
入射器スタディ (火)	08:00			
PF-AR				
通常	10:00	17:00	01:00	
PF 単バンチ運転	10:00	18:00	02:00	
木曜保守	08:30	17:00	01:00	
入射器スタディ (火)	07:00			
医学利用	8 時 30 分 5GeV 運転	午後 6.5GeV 運転に復帰	17:00	01:00

表 PF と PF-AR の入射時刻

## PF-AR ユーザー共有設備のお知らせ

物質科学第二研究系 河田 洋、松垣直宏

### 北西棟へのアクセス

PF での実験と同様、まず PF の監視員室で TL バッジと ID カードを受け取ってください。ID カードは PF 専用と PF・PF-AR 共通の二種類がありますが、後者をもって下さい。PF の監視員室から PF-AR 北西棟 (写真 1) までの移動は歩くにはちょっとつらい距離ですので、自転車、自動車等の移動手段を確保したほうがいいかもしれません (北西棟の場所は巻末の地図を参照して下さい)。ID カードで玄関を通過し、エレベータまたは階段で地下一階まで行くと、NW 実験ホール入り口です。ここから先が放射線



写真1 PF-AR 北西棟玄関



写真2 ユーザー控え室

管理区域ですので、全員 ID カードを通して入域してください。

### ユーザー共有設備

PF-AR のユーザーの方々へのユーティリティーに関して、北西棟一階にありますユーザー控え室、化学準備室、液体窒素汲出し室の整備が進められています。

#### <ユーザー控え室>

明るい日差しが入る部屋に、ソファとちょっとした事務作業ができる机、ネットワークプリンターそしてコーヒーマーカー、電子レンジ、湯沸しポット等があり、ユーザーの皆様が実験の合間に少しリラックスできればと思っております。もちろん NE の実験フロアで実験をされている方もご利用下さい。ただし、くれぐれも後片付けはよろしくお願い致します（写真2 参照）。

#### <化学準備室>

従来、PF-AR では化学準備室が無く、ちょっとした事でもすべて PF 研究棟の化学準備室に向向していました。そのような環境を少しでも改善すべく、化学準備室の整備が進められています（写真3 参照）。

#### <液体窒素汲出し室>

液体窒素に関しましても、従来 PF-AR では PF の液体窒素汲出し室からベッセルを用いて運搬されていましたが、北西棟の機械室内に常時 100 リットルの液体窒素汲出し用ベッセルを設置致しました（写真4 参照）。液体窒素の汲出しは PF の汲出し室と全く同様に現場に掲示いたしました注意を守っていただければ、ユーザーの皆様が自由に操作する事ができます。また、液体窒素ベッセルの運搬のために台車を用意してありますのでご利用下さい。ただし、別の用途で使用する事は控えてください。

その他、管理室にはコピー機を設置してあります。実験ノートのコピー等で使用する際には実験ステーション担当者の許可を得てから使用するようにしてください。



写真3 化学準備室



写真4 液体窒素汲出し室

## 新放射光計算機システムの運用開始について

放射光源研究系光源制御 三科 淳

前号でお知らせした通り、新放射光計算機システムは去る4月1日より正式運用を開始しました。

新システムではセキュリティ強化を目的とし独自のFW（ファイアウォール）を導入しており、そのため接続方法が従来とは異なることとなりましたが、既に利用者ID保有者に対しては、メールでそのことを通知しています。

また、FW導入に伴う変更点として利用者向けホームページのアドレスについても次の通りに変更となっています（<http://wwwdbpf.sr.kek.jp/~mishina/PFCS/entry.html>）。システムを利用するにあたっては上記HPをご参照下さい。

更に、実験ホールに設置したPCについてもセキュリティ上の観点から、自動修復機能とウイルスチェック機能を備えた関係で、毎週火曜日午前3時～同30分まではその動作を行うために、当該機器が常に使用できない仕様といたしました。また、PCの電源投入時や再起動時にも機器の自動修復機能が、更には1日に1度、ウイルスチェックの機能が働きますので、当該機能動作時にはご不便をお掛けすることになるとは存じますが、昨今のセキュリティに絡むニュース等をご考慮の上、ご理解の程宜しくお願いいたします。

なお、Dドライブについては自動修復の対象とはしておりませんが、当該エリアに置かれたファイルについては各自で必要な退避処理を常にされておくよう願います。

## 構造生物実験棟の増築部の竣工について

物質科学第二研究系 加藤龍一

構造生物研究グループは、2001年4月に竣工なった新研究棟（構造生物実験棟）で本格的に研究活動を開始した。当研究グループでは、細胞内蛋白質輸送系と翻訳後修飾系に関わる蛋白質群をターゲットとした目的指向型構造ゲノムプロジェクトを開始し、特に細胞内輸送に関わる部分では、重要な新規蛋白質GGA1のドメイン群の立体構造を決定し、機能に関わる重要な知見を得ることに成功している（Nature (2002) 415, 937-941; Nature Struct. Biol. (2002) 9, 527-531; Nature Struct. Biol. (2003) in press など）。

2001年10月より科学技術振興調整費「蛋白質X線構造解析の高度化に資する基盤整備」の申請が認められ、ハイスルーブットビームラインの開発、蛋白質結晶ハンドリングの自動化、蛋白質の発現と精製と結晶化についての新規技術開発、次世代二次元X線検出器の開発、構造解析ソフトウェアの自動化、を他研究機関の協力を得て行っている。さらに、2002年7月より理化学研究所と大学等の研究室で開始されたポストゲノム科学の国家プロジェクト「タン

パク3000」の、大学セクターによる「個別的解析プロジェクト」8つの研究拠点の1つとして選定された。

これらの研究プロジェクトを推進するために、ポスドクやテクニシャン等の採用を積極的に行い、現在、教官7名、工作センターから協力技官1名、ポスドク等研究員6名、大学院生3名、テクニシャン5名、SE1名、ME1名、秘書2名、の26名を構成員として擁する研究グループとなった。そのうち15名が構造生物実験棟で蛋白質の発現、精製、結晶化実験に専従している。このような研究グループの拡充に伴い実験装置も増加してきたため、構造生物実験棟の既設スペースでは研究活動に支障を来す程狭隘になったため、施設側の協力を得て既設建家(429m<sup>2</sup>)に隣接した増築建家(214m<sup>2</sup>)が2003年3月末日に竣工した。増築部では、蛋白質の発現、精製、結晶化実験を行うと共に、現在開発を進めているハイスルーブット自動結晶化装置を設置しその運用を行う予定である。

## 夏のシャットダウン時の工事について

機械運転スケジュール委員 小山 篤 (KEK・PF)  
豊島章雄 (KEK・PF)

夏のシャットダウン時にPF光源棟、研究棟では水配管の改修工事、トイレの改修工事が予定されています。

水配管工事のため、PF実験ホールの空調は7月中は停止する予定です。また、8月に入ってから部分的に停止することになると思います。この間、実験ホールの温度は30℃を常に越えた状態になると予想されます。

また、トイレの改修では、光源棟1階（監視室横）・2階のトイレと、研究棟1・2階のトイレが7月初旬から8月中旬まで使用できなくなります。

現在のところ、日程などの詳細はまだ決まっていますが、決まりましたら

<http://pfwww.kek.jp/untent-shisetsu/untent.html>

でお知らせする予定です。

ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。

## 国際交流センター開設のお知らせ

研究者の受入窓口、研究者相互の情報交換・交流等の機能を持つ「国際交流センター」が、平成15年4月1日にオープンしました。また、国際交流センターに隣接してインフォメーションセンターとインフォメーションセンター前に入出構車をチェックする遮断機（夜間及び週末作動予定）が設置されます。

平日夜8時から朝8時までと土、日、祝日の国際交流センターへの入館にはIDカード（放射線カード、図書室用IDカード等）が必要ですのでご注意ください。

施設の機能等は次のとおりです。



新しくなったユーザーズ・オフィス

●ユーザーズ・オフィス (029-879-6135、029-879-6136)  
窓口受付 月～金 9:00～12:00、13:00～17:00  
(土・日・祝日及び年末年始(12月28日～1月4日)は除く。)  
ドミトリーの予約・料金収納事務、ユーザー・データベース作成及び図書室用IDカード発行等に加えて、外国人宿舍関係事務及び放射線業務従事者登録情報の提供等も行い、各窓口業務の一元化をめざしております。

URL:<http://www.kek.jp/intra/userguide/guide/usersoffice.html>

●軽食コーナー (Do Do Cafe) (内線 2915)  
営業時間 月～金 8:00～22:00  
(土・日・祝日及び年末年始(12月28日～1月4日)は除く。)  
30席程度でサンドイッチ等の軽食をメインにしています。  
17時以降はアルコール飲料も用意されています。

- ・モーニングタイム 8:00～11:00  
セットメニュー、パン、サラダなど
- ・ランチタイム 11:00～14:00  
チョイスサンド、デザート、ドリンクなど
- ・ティータイム 14:00～17:00  
ドリンク、デザート、パンなど
- ・ナイトタイム 17:00～22:00  
アルコール、おつまみなど



国際交流センター入口とインフォメーション

●自販機コーナー  
食堂入口脇常陽銀行 ATM の隣に軽食の自販機 (焼きおにぎり、たこ焼き、やきそば、ホットドッグ、フライドポテト、おむすび&唐揚げ) とパン類の自販機 (デニッシュ類、蒸しケーキ等) が設置されました。

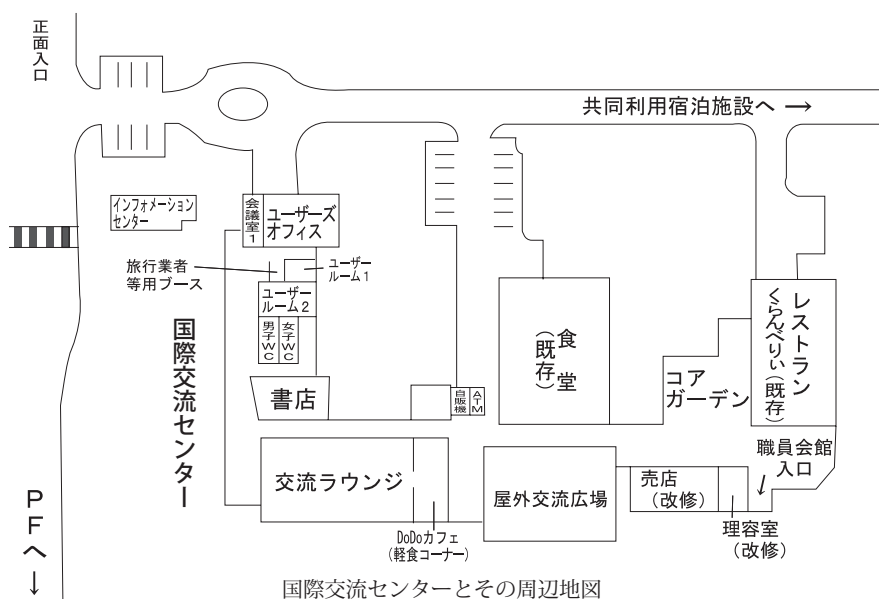
●書店 (内線 2988)  
書籍専門店となり、理工書を中心とした書籍、雑誌も充実。  
営業時間 月～金 10:00～17:00  
(土・日・祝日及び年末年始(12月28日～1月4日)は除く。)

●旅行者等用ブース  
日新航空サービス (株) による出張サービスがあります。  
(営業日時: 月・木、11:30～13:30)

●無線 LAN  
ドミトリー同様、施設内では無線 LAN の使用が可能です。

●駐車場について  
車利用者のために計算科学センター南側駐車場 (72 台分) 及び東側エントランス付近に身障者用駐車場 (2 台分) が用意されています。

なお、本施設内は全面禁煙となっております。ご協力の程宜しくお願い致します。



## 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所人事公募

公募番号	物構研 03-3	公募人員及び職種	非常勤研究員（研究機関研究員） 1名（任期2年）	
研究分野・研究内容	放射光研究施設において、以下の1つの研究分野のいずれかを内部スタッフと共同して精力的に推進する研究者を1名公募する。 (1) 放射光回折・散乱法を用いて強相関系物質に関する実験的研究を構造物性の観点から行う。 (2) 先端の時分割X線回折・散乱測定法の開発とともに外的刺激により誘起される物質構造の時間変化についての研究を行う。 (3) 放射光X線マイクロビームを用いて液晶材料の分子配列及び層構造の静的・動的空間分布についての研究を行う。			
応募資格	平成15年4月1日現在35歳未満の若手研究者で、博士の学位を有する者又は着任までに博士の学位取得が確実な者。			
公募締切	平成15年5月30日（金）	着任時期	採用決定後できるだけ早い時期。	
待遇等	(1) 身分 ----- 一般職の非常勤職員（講師） (2) 給与 ----- 月額30万円程度（経歴等により若干の増減があります。） (3) 勤務時間 ----- 1週間当たり20時間を超えない範囲とする。			
選考方法	原則として面接選考とする。			
提出書類	(1) 履歴書 通常の履歴事項の後に、①応募する公募番号（2件以上応募の場合はその順位） ②メールアドレスがある場合は明記すること。③希望研究内容（上記「研究分野・研究内容」参照） (2) 研究歴 (3) 発表論文リスト（和文と英文は別葉とすること。） (4) 着任後の抱負 (5) 論文別刷（主要なもの3編以内） (6) 本人に関する推薦書または参考意見書 上記の書類は、履歴書用紙を除き、すべてA4判横書きとし、それぞれ別葉にすること。 なお、各葉に氏名を記入すること。			
書送付先	〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所長 小間 篤 封筒の表に「非常勤研究員公募関係」と朱書きし、郵送の場合は書留とすること。			
問い合わせ先	【提出書類に関して】総務部庶務課人事第二係 TEL:029-864-5118（ダイヤルイン） 【研究内容に関して】物質構造科学研究所 物質科学第二研究系研究主幹 飯田厚夫 TEL:029-864-5634（ダイヤルイン）			

詳しくは高エネルギー加速器研究機構ホームページ「人事公募」(<http://info-pub.kek.jp/jinji/>)をご参照下さい。

身分	井上フェロー	公募人員及び任期	1名、着任してから2年間	
条件	(1) 博士の学位を有するか、または取得が確実な方。 (2) 35歳未満（採用時）である方。 (3) 採用期間中（2年間）は後述の研究内容に専念できる方。 (4) 物構研・東大院理化学専攻の出身者・在籍者以外の方。 (井上フェローには、研究計画担当者が所属する研究所あるいは出身の大学院専攻の出身者、在籍者は原則として採用できない、という規定があります。) (5) 超高真空表面実験あるいは放射光実験に関する経験があることが望ましい。			
研究内容	固体表面分子の内殻励起後の緩和、脱離のダイナミクスに関して実験的研究を行なう。手法としては、放射光励起電子-イオンコインシデンス分光法、光電子-オージェ電子コインシデンス分光などを用いる。表面コインシデンス分光法に関してはホームページ <a href="http://www.uvsor.ims.ac.jp/beamline/bl2b1/eico/EICO-J.html">http://www.uvsor.ims.ac.jp/beamline/bl2b1/eico/EICO-J.html</a> を参照ください。			
公募締切	決まり次第締め切らせていただきます。	着任時期	採用決定後できるだけ早い時期。	
選考方法	原則として面接選考とする。			
提出書類	1) 履歴書（写真貼付）、2) 業績リスト、3) これまでの研究概要（A4、1枚程度）、4) 照会者の連絡先、5) 可能であれば指導教官の推薦書 ※ pdf ファイルをメールに添付して送ってくださってもかまいません。			
書類提出および連絡先	間瀬一彦 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所、 物質科学第一研究系、PF、PF 実験準備棟 201 号室 PHS: 代表：029-864-5200 + 音声案内+ PHS 番号：4440 TEL: 029-879-6107、FAX: 029-864-2801、E-mail: mase@post.kek.jp			

## 物質構造科学研究所・構造生物学グループ 博士研究員および技術員募集

<p>【研究室紹介】当グループは若槻教授をヘッドとして2000年春に発足した新進の研究室で、助教授1名、助手5名の研究スタッフの他、ポスドク等研究員6名、研究支援者9名、博士課程大学院生3名が現在のメンバーである。本グループは放射光X線結晶構造解析ビームラインの建設、運営、共同利用ユーザーのサポート、ロボティクスを用いた構造解析高度化のための新規技術開発を鋭意進めると共に、細胞内輸送と糖鎖修飾の分子機構を明らかにするため、それらに関わる蛋白質の構造プロテオミクス研究に取り組んでいる。その成果の一部、糖タンパク質輸送に関わるタンパク質の解析結果は既に有力誌に発表されている (<i>Nature</i> 415, 937-941, 2002, <i>Nature Structural Biology</i>, 9, 527-531, 2002, <i>Nature Structural Biology</i> April 9, 2003 Advance Online Publication)。</p>
<p>【業務内容】</p> <p>① 博士研究員、テクニシャン 当グループの研究テーマに沿って、自立的に研究を行うことを期待する。具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 組換えDNA技術による蛋白質の大量発現系の構築</li> <li>(2) その蛋白質精製法の確立と精製蛋白質の生化学的性質の研究</li> <li>(3) 結晶化と放射光ビームラインを用いたX線結晶構造解析</li> <li>(4) 構造情報に基づいた生化学的・細胞生物学的解析</li> </ol> <p>などを行い、最終的には生命の分子機構の解明や、構造に基づいた創薬や新しい医療法の開発を目指す。</p> <p>② テクニシャン 蛋白質構造解析の補助(回折実験、構造解析等)として・放射光実験施設での回折データ収集・回折データの処理及び評価・構造解析を行い、業務の補助を行う。</p> <p>③ 博士研究員、テクニシャン 結晶構造解析(位相決定法)に関するアルゴリズム・方法論の開発を行う。</p> <p>④ システムエンジニア(SE) ・実験装置・ロボットの制御ソフトウェア、GUIの開発 ・ネットワークを利用した実験システムの開発 ・用いるプログラミング言語はC, C++, Perl等</p>
<p>【応募資格】①②③④に共通。大卒以上。蛋白質構造解析の知識があることが望ましいが、経験がなくても蛋白質の構造解析に情熱を注げる方であれば可。物理の素養はある方が良い。博士研究員については、学位を取得しているか、取得見込みのこと。</p> <p>④ 上記共通事項のほか・Windows、Linux(UNIX)の両方もしくは一方のプログラミングに精通している方・TCP/IPを用いたプログラミングの経験があればなお良い。</p>
<p>【募集人員】それぞれ若干名</p>
<p>【提出書類】履歴書、業務経歴書、博士研究員の場合は主要論文の別刷りと今までの研究概要。可能であれば指導教官の推薦書。</p>
<p>【着任時期】決定次第</p>
<p>【待遇】科学技術振興調整費、あるいはタンパク3000プロジェクト予算による雇用なので、年度毎更新。給与や休日は本研究機構の規定による。</p>
<p>【書類提出・送付先】〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所・構造生物学グループ・若槻壮市 Tel: 029-879-6178, Fax: 029-879-6179, <a href="http://pfweis.kek.jp/index_ja.html">http://pfweis.kek.jp/index_ja.html</a></p>
<p>【連絡先】若槻教授室、秘書、永田直美 TEL: 029-879-6178 Email: <a href="mailto:naomi@post.kek.jp">naomi@post.kek.jp</a> 業務に関する問い合わせ先:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 加藤龍一 TEL: 029-879-6177 Email: <a href="mailto:ryuichi.kato@kek.jp">ryuichi.kato@kek.jp</a></li> <li>② 鈴木 守 TEL: 029-864-5649 Email: <a href="mailto:suzuki@pfweis.kek.jp">suzuki@pfweis.kek.jp</a></li> <li>③ 松垣直宏 TEL: 029-864-5647 Email: <a href="mailto:mtgk@pfweis.kek.jp">mtgk@pfweis.kek.jp</a></li> <li>④ 五十嵐教之 TEL: 029-864-5641 Email: <a href="mailto:noriyuki.igarashi@kek.jp">noriyuki.igarashi@kek.jp</a></li> </ol>
<p>【付記】本応募による博士研究員は、放射光ビームラインの維持等に関わる業務にはタッチしません。詳しくは直接お問い合わせ下さい。</p>

## 予 定 一 覧

### 2003 年

- |           |   |
|-----------|---|
| 6月18日-20日 | 高エネルギー加速器研究機構 総合研究大学院大学「夏期実習」                                     |
| 6月20日     | 平成15年度後期フォトン・ファクトリー研究会公募締切  |
| 6月28日     | KEK 三十年記念講演会 (学術総合センター2階「一橋記念講堂」)                                 |
| 6月30日     | PF、PF-AR 平成15年度第一期ユーザー運転終了  |
| 7月21日-23日 | 「X線・中性子による薄膜ナノ構造および埋もれた界面の先端解析技術に関するワークショップ」(名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリ) |
| 7月25日     | PF-AR / KEKB 地区停電 (8:30 ~ 19:00)                                  |
| 7月26日     | 全所停電 (8:30 ~ 19:00)   |
| 7月27日     | 全所停電 (8:30 ~ 19:00)   |
| 9月8日-12日  | 第25回自由電子レーザー国際会議、第10回FEL利用者ワークショップ (FEL2003)                      |
| 9月15日     | 平成15年度高エネルギー加速器研究機構一般公開   |
| 9月19日     | 平成16年度前期共同利用実験課題 (S2型) 申請締切                                       |
| 11月7日     | 平成16年度前期共同利用実験課題 (G型・P型) 申請締切                                     |

### 2004 年

- |          |                                   |
|----------|-----------------------------------|
| 1月8日-10日 | 日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム (エポカルつくば) |
|----------|-----------------------------------|

最新情報は <http://pfwww.kek.jp/spice/getschtxt> でご覧下さい。

---